

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 4月25日

【評価実施概要】

事業所番号	3474000373		
法人名	医療法人 ほほえみ会		
事業所名	グループホーム ほほえみ呉安浦		
所在地 (電話番号)	呉市安浦町安登東5-4-5 (電話) 0823-84-7225		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島		
所在地	広島市東区福田1丁目167番地		
訪問調査日	平成20年4月24日	評価確定日	平成20年5月10日

【情報提供票より】(H20年 4月 9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 12 月 1 日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	12 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 15.08 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建て	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円
敷 金	有(130,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	17 名	男性	0 名	女性	17 名	
要介護1	11 名	要介護2	2 名			
要介護3	4 名	要介護4	名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	82 歳	最低	71 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	クリニック ほほえみ呉、戸井内科外科医院、尾田歯科クリニック
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

コンセプトのはっきりしたホームである。現在までのところ、利用者は要介護3までの女性に限られ、本来のグループホームのあるべき方向が目指されている。「利用者の気持ちを尊重する」ことを最も大切にしたケア活動を行うべく、管理者以下意欲的に取り組まれている。ケアプランで掲げた課題も確実にフォローされ、経過を記録し、3ヶ月毎のモニタリングにつなげている。利用者は、元気でいきいき見える人が多い。レクタイムの2時、リビングからは、笑い声と歌声が聞こえる。古い町の中にできた、新しい住宅地の中に、ゆったりと恵まれた環境にある。開設して3年、地域とのつながりも深まりつつあり、地域と共にのびのびと暮らせるホームが目指されている。

重点項目への取組状況

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 評価を実施することの意義は理解されている。前回指摘の改善項目(7)への取り組みは、できるところから取り組みながら、徐々に効果をあげている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は、管理者とユニット責任者で検討し、まとめられている。今後は、可能な限り、全社員参加型で検討し、まとめられるよう期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に一回開催されている。地域の人やご家族の意見を元に話し合い、できることから実施しサービスに活かしている。今後は、会議内容の質を高め、例えば、災害時の地域連絡網づくりなど、実利的なサービス向上にもつながる運営推進会議にすべく、さらなる努力が期待される。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 報告はできるだけ面会時に行なうようにしているが、必要ときには電話連絡している。また、月1回の手紙連絡も行なっている。苦情なども遠慮なく申し立てできるよう窓口の設定、フローチャートも公開し、何かあっても迅速に対応できるようにしているが、苦情申し立て可能な第三者機関の具体的な明示がない、重要事項説明書に明記し、ご家族にも徹底することが望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) とんどなど地域行事、自治会の行なっているサロンなどへの参加の他、保育所との交流も行なっている。毎月発行の「ほほえみ新聞」を配ってPRしたり、ホームの行事に参加を呼びかけるなど、地域との付き合いを深めるよう努力している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念「入居者の気持ちを尊重し、優し声かけで接し、安心して安全な生活を送ってもらいます」をつくり、いつもほほえみを忘れず、地域に根差した介護が目指されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	廊下正面やスタッフルームへの掲示、連絡ノートへのつづり込みなど、常に目の届くところに明示しており、職員は常に意識して、日常ケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	とんどなどの地域行事、自治会の行なっているサロンなどへの参加の他、保育所との交流も行なっている。毎月発行の「ほほえみ新聞」を配ってPRしたり、ホーム行事に参加を呼びかけるなど、地域との付き合いを深めるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を実施することの意義は理解されている。前回指摘の改善項目(7)への改善取り組みは、できるところから取り組み、徐々に効果をあげている。また、今回の自己評価は管理者とユニット責任者で検討しまとめられている。		今後、自己評価実施に当たっては、可能な限り全員参加型で検討し、まとめられるよう期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されている。地域の人やご家族の意見を元に話し合い、できることから実施しサービス向上に活かしている。		徐々に会議内容の質を高め、実利的なサービス向上にもつながる(例えば、災害時の地域連絡網づくりなど)運営推進会議にすべく、さらなる努力が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の窓口とは、報告や相談などを行えるだけコンタクトの機会をもつように努力している。尚、包括センターとは常に連携をとっている。また、昨年末には、地元中学生6名の実習受け入れも行った。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	できるだけ面会時に報告するようにしているが、何かあれば電話で連絡や相談を行い、内容は記録に残している。また、月一回手紙と写真を送り、暮らしぶりを伝えるようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情申し立ての窓口を決め、遠慮なく申し立てができるようにしている。フローチャートもオープンにし、何かあっても迅速に対応できるようにしている。	○	契約書または重要事項説明書に、市の保険課など苦情申し立て可能な第三者機関を具体的に明記するとともに、ご家族などへの徹底を望みたい。また、玄関などにご意見箱の設置も望みたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が対応することが重要と考えており、グループ内の異動は行っていない。退職があった場合も、十分な情報伝達を行なうことや言葉がけに注意するなど、ダメージを防ぐよう配慮している。これまで、大きなダメージあったと認められたケースはない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は、新人基礎研修の他、毎月一回さまざまな研修が行なわれている。管理者研修も月一回、各部門ごとの勉強会も行なわれている。社外研修にも積極的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などで情報交換は行なっているが、地域同業者との交流はまだ行なわれていない。	○	地域同業者との交流機会をつくり、相互訪問や勉強会をおこなうことで、さらにサービスを向上させて行く取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時本人やご家族と充分話し合い、馴染める環境づくりを工夫している。原則的には、皆さんに体験入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は本人を介護される一方の立場におかず、人生の先輩として利用者の気持を尊重し、意思をしっかり受け止め、ともに支えあう関係を築いている。ともに喜び、ともに感謝し、楽しく感情豊かに暮らしてゆけるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時できるだけ本人の生活歴や思いや希望を掴むようにしている。その後も、意向や意向把握に努め、可能な限り、思いを尊重したケアができるよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、よりよく暮らせるためのケアのあり方について、本人、ご家族、関係する職員で充分話し合って策定されている。特に、ご家族とは人間関係を築きながら情報を得て、ご家族の思いをプランに組み入れるよう努力している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	掲げた課題の進捗状況をフォローしながら、3ヶ月毎に見直しを行なっている。また、体調などに急激な変化があった場合、関係者で話し合い、現状に即した新たな計画が策定されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の状況に応じ、里帰りなどプライベートな要望の外出などにも、可能な限り柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの診療所による毎週1回の往診など、適正な医療支援が行なわれている。また、本人やご家族の希望があれば、これまでのかかりつけ医でも受診できるよう支援している。緊急時の搬送先等も入居時に確認し、希望に添えるよう努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終身介護でなく、介護困難にいたった時は退去いただくことを方針とし、入居時充分説明し納得を得ている。ただし、退去に当たっては、ご家族とも充分話し合い、可能な限りご意向に沿うよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねず、本人の意思を尊重し、やさしい声かけと状況にあった対応に努めている。また、個人情報の取り扱いに関しては、入居時文書確認を行なうなど十分な配慮がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理なスケジュールは定めず、可能な限り利用者の気持ち大切に、利用者のペースで、ゆったりと過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者、職員と一緒に楽しく食べながら、必要な介助がなされている。準備や片付けは一緒に行なっている。また、食事前に嚥下体操をし、食欲を増すようにもしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの入浴希望を確認し、できるだけそのパターンで入浴してもらうようにしている。また、希望する人には入浴回数を増やすよう対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かし、料理、掃除、洗濯干し、園芸、楽しみごとでは毎日のレク(歌、パレー)、月例行事や外出など、利用者から教わったり、助けてもらう場面をつくることで、利用者の楽しみや気晴らしになるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者ができるだけホーム内に閉じこもらぬよう、朝夕の散歩、希望者による買い物、花壇の水やりの他、毎月の行事や遠出などできるだけ外出機会をつくるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全上の配慮から、玄関は外からは自由に入れるが、内からは職員の鍵がないと出られぬようになっている。外出希望があるときは、その都度対応している。ご家族、地域の人には説明し納得を得ており、むしろ安心してもらっている。	○	鍵をかけることの弊害を理解頂き、鍵をかけないケアに向けた取り組みを期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害発生時の避難訓練は年1回実施するとともに、職員連絡網も掲示されている。救急救命訓練も実施している。		災害発生時の地域支援体制、緊急時地域連絡網の整備など、万一のとき、地域の人たちの協力が得られる体制づくりも望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は把握し記録されており、利用者の状況に応じた支援も行なわれている。昼、夕食は業者に、カロリー計算された福祉メニューを注文しており、食事内容もその人にあったものを提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、2ユニットを結ぶ廊下はゆったりとしている。台所と一体化したリビングは程よい広さで、コーナーにはテレビやソファを置いた寛ぎのスペースが設けられている。照明も適当、各所に、利用者の作品や絵画が飾られており、全体として季節感もあり、家庭的で、利用者にとって居心地良い共用スペースとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの生活用品が持ち込まれている。清潔で、写真や作品など思い思いの飾り付けもなされ、利用者にとって、居心地良く過ごせる場所となっている。		

NPOインタッチサービス広島

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念の基づく運営				
1 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	認知症の利用者に対し、介護職として何をすべきかを考えホームの理念を作っている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	スタッフルームに理念を掲示して浸透を図っている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホームの廊下に評価表と共に置き、いつでも見ることが出来る様ようにしている。		地域の方へは、サロンや行事で来て頂いた時に、浸透を図りたい。
2 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩やサロン、年間の行事に参加した時に、挨拶や来て頂くよう、声を掛けているが、全ての職員が出来ているわけではない。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会が行っているサロンへ毎月参加したり、行事へも参加している。 毎月発行している新聞を、サロンや推進会議の時に配っている。		今まで以上に、ボランティアの方や地域の方に、来て頂く機会を増やしたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議等で、今後どのように地域に貢献するか意見を求め何案が具体的な案も出ているが実施するに至っていない。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	壁画の作成をし、出来ることから取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	御家族の意見をもとに話し合い、出来ることから、取り組んでいる。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	介護保険更新時に書類の提出と訪問調査時にホームの状況を相談しアドバイスを頂いている。 当ホームでは、生保の方も入居されており生活福祉課と空き状況等で話し合う機会を持っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	職員を含めての勉強会はできていない、成年後見制度はすでに活用している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	研修に参加し、口頭にて説明し防止に努めている。		
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前の見学や、入居契約時に口頭や文書にて説明し、同意をえている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	意見、不満、苦情をいって頂ける関係作りにつとめている。何かあった時はクレームシートに記入し迅速な対応、改善を行っている。介護相談員の訪問も受け入れている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	何かあればその都度電話で連絡や相談をし、報告の内容は記録に残している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情申し立て窓口を設置し、迅速な対応を行っている。フローチャートは廊下に貼り出している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の会議や、なにかあればその都度報告してもらい、意見、話し合いの場を設けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	早出、日勤、遅出、夜勤の4交替で勤務時間を少しずつずらし、利用者の生活に沿った対応が出来るようにしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ダメージを防ぐ配慮はしている。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の研修は新人基礎研修の他に、毎月1回本部にて様々な研修が行われている。管理者研修も毎月1回あり、各部署ごとの勉強会もある。法人外の研修にも積極的に参加できている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	個別に地域の同業者との交流は行っていないが、研修会等に参加した際に情報交換している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員は自己評価をもとに管理者と面接をしたり、必要に応じて話し合いを行っている。管理者は何かあれば本部に相談、必要があれば理事長と面接相談出来るよう配慮している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員個々の努力や勤務状況は把握している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面接、訪問に行った際は利用者の話を傾聴し、受け止めるようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面接、訪問に行った際は、基本情報を聞くとともに、求めていることや質問を聞き出しよく話を聞いて受け止めるようにしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	基本情報や話をもとに、一番必要としていることを聞き出し、支援に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気次第に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	体験入居を行い、馴染めるような関係作りにつとめ、家族に相談しながら工夫している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支えあう関係が築けるように努力している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	全ての職員が出来ているわけではないが、共に支えていく関係を築いている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	入居時のアセスメント等により理解をして、良い関係が保てるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会に来て頂いたり、電話で話をしてもらっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	孤立しがちな利用者へは、スタッフが関わり合っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	何かあればすぐに相談できるような関係作りをしている。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント </div>				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いを尊重している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントやバックグラウンドをもとに把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	様子観察と出来ること出来ないこと、暮らし方シート等で現状を把握している。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	御家族とも人間関係を築きながら情報を得て、課題が解決できるよう努め、本人や御家族の思いをプランに組み入れるよう努力しているが、本人との相談は特定の方しかできていない。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月で定期的におこない、必要に応じて見直し、相談話し合いを行い、プランを作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	申し送りノートに記載している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	要望に応じて満足して頂けるような対応を行っている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	毎月1回の自治会のサロンに参加した際に、民生委員、ボランティアの方と話す機会を持ち協力して頂いたり、消防は年二回来て頂き、避難訓練や救命講習を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて報告、相談を行い対応している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	相談したり、見学に来て頂く機会を設けたり、話し合いの場に行くよう努め、2ヶ月に一回推進運営会議を開き話し合いをしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	ホームの見学、契約の際に説明し、適切な医療を支援している。緊急時の搬送先等も入居時に確認し、希望に添えるよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	法人内の医師が専門医なので、なにかあればすぐに相談、診療、治療を受けることができる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	近くに診療所があり、毎週1回の往診もあり、相談しながらの支援を受けている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	面会に伺ったり御家族と連絡を取り、現在の状況と今後の対応などについて話し合う機会を持っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。			当ホームは終身ではないことを、見学、入居時に説明をし、当ホームでの介護が困難な状況に至った時は、退居して頂く事のある旨を説明している。退居の時は御家族様との相談を密にし、ご意向にそった形を取るよう努めている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	主治医と同法人内の施設と連携し、御家族の意向に沿った支援をおこなっている。ホームの性格上、医療体制に限界があり、重篤な方は他施設への紹介をさせて頂く。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	他施設や自宅に移るときは、関係者と面接をし、出来るだけ適切なケアの情報を伝えるよう努力し、退居後のフォローも気軽に応じる用意のあることを、関係者に伝えている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	本人の意思を尊重し、優しい声かけと、その時の状況に合った対応が来ている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	意見・希望を充分把握できるように本人と話し、意思表示が充分出来ない方は、表情や反応、情報をもとに、本人の希望や好みをつかむようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	無理なタイムスケジュールは定めず、ゆっくりとした時間を持ち、入居者とのコミュニケーションを大切に、入居者のペースに合わせた生活が送れるよう、スタッフに説明している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	今まで生活していた馴染みの服を着てもらい、出かけるときは声かけをし、おしゃれをしてもらっている。髪型も本人の希望を聞いて行っているが、髪は訪問理容で整えている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	昼・夕食は食材の宅配サービス利用、朝は好みに添えるよう努めている。準備、後片付けは一緒におこない、食事前の嚥下体操をして、食欲を増すようこえかけをしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物、おやつ等は好みの物を、行事、誕生日会などは特別な食事を提供している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄管理表にて、排泄パターンが把握できるようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴の希望確認を行いながら、個々の入浴ペースの把握をし、統一した対応をしている。入浴の時間帯はホームで決めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	睡眠パターンの把握に努め、気持ちよく寝て頂くよう夜間の巡視に努め、状態により昼寝の時間を取り、体調管理をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	アセスメントやバックグラウンドをもとに、料理、掃除、食器洗い、洗濯干し、園芸等、個々にあった役割を支援し、いろいろなことを教わったり、助けてもらう場面を作り、楽しみや、気晴らしの支援が来ている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在金銭の管理が出来る方がいない為、ホーム側で預かり、買い物に出かけた時は、スタッフが支払うようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物等の希望を聞き対応している。暖かい季節には朝、夕散歩に出たり、庭の花壇で花の水やりをして、気分転換をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	行きたい所の希望を聞き、毎月の行事で検討し、年に何回か遠出をしている。個々の外出は家族の支援を受け(墓参り等) 希望に添うようにしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望されれば、掛けて頂き、自分で掛けれない方にはホームで掛けて取り次ぎ、時には家族から掛けて頂くよう、お願いしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問して頂くようにお伝えし、こちらからも様子を伝えるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束のない介護を実践している。研修で学んだことをスタッフで共有し、拘束のない介護の意識を高めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室に鍵を設置していない、出口は玄関だけで、外からは自由に入れる。中からはスタッフの鍵がなければ出られない。外出希望があるときは安全に配慮しながら対応している。家族、地域の方には説明をし、理解してもらっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	共用空間では常にスタッフが1人以上で見守りをしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の状態に応じた対応ができています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ひやりはつとや事故報告書を記入し、原因、問題、改善についてその都度話し合いをし、記録に残している。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	緊急時、事故発生時、火災時の対応はスタッフルームに掲示、他の対応はリビングに貼り、訓練は消防訓練の時に救命講習をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時の対応、連絡網を作成しスタッフルームに掲示している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	状態変化によるリスク発生については、その都度連絡し、ひやりはつとが生じた時も家族に連絡、説明をし、利用者の暮らしを尊重しながら、家族と話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	本人に体調を伺う、毎日定期でバイタル測定、申し送りで注意点を話あう、記録簿に記入し対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬についての説明書を個人ファイルにおさめ、理解確認し、情報を共有している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	ケースごとに排便コントロールを行い、適切な下剤の選択、自然便を促すよう飲食物を提供している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケアを実施している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量を記録に残し、その時に応じた支援をおこなっている。昼、夕食は業者よりカロリー計算された福祉メニューを注文して、食事形態もその人にあったものを提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがい、消毒を徹底し、予防対応の取り決めがあり、それをリビング、廊下に貼っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食器、調理用具の消毒を決め毎日実施している。食材も新鮮な物を使用している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ホームのまわりに田畑が多く、とりたてて意識せず、自然をそのまま受け入れている。玄関やリビングの窓から見える庭には、季節の花を植えている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	不快な音や光を出すことはない。室内の照明も時間、天候で配慮し、日差しはカーテンで調整している。家具、備品は最小限に抑え、トイレには花飾り、玄関、廊下、リビングには絵を飾り、好みの音楽、テレビをかけたり、毎月にちなんだ壁画を作り、季節感、達成感を味わえるように取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ベンチやソファ、畳の空間をもうけ、プライバシーに配慮しながら、気のあった入居者同士の交流がスムーズにいくよう工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には備え付けの家具はない、今まで本人さんが使用していた、馴染みの物、家具を持ってきて頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空調設備は整っている、こまめに温度管理をし、換気も午前午後行っている。居室は入居者と話をして調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	全棟バリアフリーで必要に応じ、廊下、トイレ、浴槽に手すりを設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室入口に写真、必要に応じて名前を大きく貼ったり、個々に説明をしている。		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	徐々にではあるが施設の周りに花を植え、プランターをおき、利用者さんと花のお世話をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	------------------------	---------------------------------

V サービスの成果に関する項目 A ユニット

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> ① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念の基づく運営				
1 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	認知症の利用者に対し、介護職として何をすべきかを考えホームの理念を作っている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	スタッフルームへの掲示と申し送りノートへつづり、日常的に取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ホームの廊下に評価表と共に置き、いつでも見ることが出来る様ようにしている。		地域の方へは、サロンや行事で来て頂いた時に、浸透を図りたい。
2 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩やサロン、年間の行事に参加した時に、挨拶や来て頂くよう、声を掛けているが、全ての職員が出来ているわけではない。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会が行っているサロンへ毎月参加したり、行事へも参加している。 毎月発行している新聞を、サロンや推進会議の時に配っている。		今まで以上に、ボランティアの方や地域の方に、来て頂く機会を増やしたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議等で、今後どのように地域に貢献するか意見を求め何案が具体的な案も出ているが実施するに至っていない。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回の評価を基に、食事の際に音楽をかけたり、内装があたたかく、より家庭的になるよう改善できることから、取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	御家族の意見をもとに話し合い、出来ることから、取り組んでいる。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	介護保険更新時に書類の提出と訪問調査時にホームの状況を相談しアドバイスを頂いている。 当ホームでは、生保の方も入居されており生活福祉課と空き状況等で話し合う機会を持っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	職員を含めての勉強会はできていない、成年後見制度はすでに活用できている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修に参加し、資料は申し送りノートにつづり、理解を得て防止に努めている。		
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前の見学や、入居契約時に口頭や文書にて説明し、同意をえている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	意見、不満、苦情をいって頂ける関係作りにつとめている。何かあった時はクレームシートに記入し迅速な対応、改善を行っている。介護相談員の訪問も受け入れている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	何かあればその都度電話で連絡や相談をし、報告の内容は記録に残している。毎月1回手紙と写真を郵送している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情申し立て窓口を設置し、迅速な対応を行っている。フローチャートは廊下に貼り出している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の会議や、なにかあればその都度報告してもらい、意見、話し合いの場を設けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	早出、日勤、遅出、夜勤の4交替で勤務時間を少しずつずらし、利用者の生活に沿った対応が出来るようにしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ダメージを防ぐ配慮はしている。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の研修は新人基礎研修の他に、毎月1回本部にて様々な研修が行われている。管理者研修も毎月1回あり、各部署ごとの勉強会もある。法人外の研修にも積極的に参加できている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	個別に地域の同業者との交流は行っていないが、研修会等に参加した際に情報交換している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員は自己評価をもとに管理者と面接をしたり、必要に応じて話し合いを行っている。管理者は何かあれば本部に相談、必要があれば理事長と面接相談出来るよう配慮している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	職員個々の努力や勤務状況は把握している。		

号 番	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面接、訪問に行った際は利用者の話を傾聴し、受け止めるようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面接、訪問に行った際は、基本情報を聞くとともに、求めていることや質問を聞き出しよく話を聞いて受け止めるようにしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	基本情報や話をもとに、一番必要としていることを聞き出し、支援に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	体験入居を行い、馴染めるような関係作りにつとめ、家族に相談しながら工夫している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の気持ちを尊重し、話をよく聞き、受け止めながら支え合う関係を築いている。共に喜び、さりげなくほめ、共に感謝し、楽しく感情豊かに暮らしていけるようつとめている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会に来られた時や電話での報告の際に、話をしっかりして、共に支えていく関係を築いている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	入居時のアセスメント等により理解をして、良い関係が保てるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会に来て頂いたり、外出したい場所等を聞き、行けるよう支援している。その他電話や手紙を書いて頂くようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	仲の良い利用者同士が共に過ごせるよう配慮している、孤立しがちな利用者は、他の利用者との交流が難しいが、スタッフが間にたって関わりを持てるよう、支え合いの機会を作っている		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	何かあればすぐに相談できるような関係作りをしている。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント </div>				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いを尊重している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントやバックグラウンドをもとに把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	様子観察と出来ること出来ないこと、暮らし方シート等で現状を把握している。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	御家族とも人間関係を築きながら情報を得て、課題が解決できるよう努め、本人や御家族の思いをプランに組み入れるよう努力しているが、本人との相談は特定の方しかできていない。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月で定期的におこない、必要に応じて見直し、相談話し合いを行い、プランを作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録を付けると共に変化や気づき等があれば、申し送りノートに記載し、実践・計画・見直しに活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	要望に応じて満足して頂けるような対応を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	毎月1回の自治会のサロンに参加した際に、民生委員、ボランティアの方と話す機会を持ち協力して頂いたり、消防は年二回来て頂き、避難訓練や救命講習を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて報告、相談を行い対応している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	相談したり、見学に来て頂く機会を設けたり、話し合いの場に行くよう努め、2ヶ月に一回推進運営会議を開き話し合いをしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	ホームの見学、契約の際に説明し、適切な医療を支援している。緊急時の搬送先等も入居時に確認し、希望に添えるよう努めている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	法人内の医師が専門医なので、なにかあればすぐに相談、診療、治療を受けることができる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	近くに診療所があり、毎週1回の往診もあり、相談しながらの支援を受けている。		

号 番	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	面会に伺ったり御家族と連絡をとり、現在の状況と今後の対応などについて話し合う機会を持っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。			当ホームは終身ではないことを、見学、入居時に説明をし、当ホームでの介護が困難な状況に至った時は、退居して頂く事のある旨を説明している。退居の時は御家族様との相談を密にし、ご意向にそった形を取るよう努めている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	主治医と同法人内での施設と連携し、御家族の意向に沿った支援をおこなっている。ホームの性格上、医療体制に限界があり、重篤な方は他施設への紹介をさせて頂く。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	他施設や自宅に移るときは、関係者と面接をし、出来るだけ適切なケアの情報を伝えるよう努力し、退居後のフォローも気軽に応じる用意のあることを、関係者に伝えている。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1 その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p> </div>				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	本人の意思を尊重し、優しい声かけと、その時の状況に合った対応が出来る。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	意見・希望を充分把握できるように本人と話をし、意思表示が充分出来ない方は、表情や反応、情報をもとに、本人の希望や好みをつかむようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	無理なタイムスケジュールは定めず、ゆっくりとした時間を持ち、入居者とのコミュニケーションを大切にし、入居者のペースに合わせた生活が送れるよう、スタッフに説明している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	今まで生活していた馴染みの服を着てもらい、出かけるときは声かけをし、おしゃれをしてもらっている。髪型も本人の希望を聞いて行っているが、髪は訪問理容で整えている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	昼・夕食は食材の宅配サービス利用、朝は好みに添えるよう努めている。準備、後片付けは一緒におこない、食事前の嚥下体操をして、食欲を増すようこえかけをしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物、おやつ等は好みの物を、行事、誕生日会などは特別な食事を提供している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄管理表と個々のマニュアルを作成し、わかりやすく排泄パターンが把握できるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴の希望確認を行いながら、個々の入浴ペースの把握をし、統一した対応をしている。入浴の時間帯はホームで決めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	睡眠パターンの把握に努め、気持ちよく寝て頂くよう夜間の巡視に努め、状態により昼寝の時間を取り、体調管理をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	アセスメントやバックグラウンドをもとに、料理、掃除、食器洗い、洗濯干し、園芸等、個々にあった役割を支援し、いろいろなことを教わったり、助けてもらう場面を作り、楽しみや、気晴らしの支援が来ている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在金銭の管理が出来る方がいない為、ホーム側で預かり、買い物に出かけた時は、スタッフが支払うようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物等の希望を聞き対応している。暖かい季節には朝、夕散歩に出たり、庭の花壇で花の水やりをして、気分転換をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	行きたい所の希望を聞き、毎月の行事で検討し、年に何回か遠出をしている。個々の外出は家族の支援を受け(墓参り等) 希望に添うようにしている。		

号 番	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望されれば、掛けて頂き、自分で掛けれない方にはホームで掛けて取り次ぎ、時には家族から掛けて頂くよう、お願いしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問して頂くようにお伝えし、こちらからも様子を伝えるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束のない介護を実践している。研修で学んだことをスタッフで共有し、拘束のない介護の意識を高めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室に鍵を設置していない、出口は玄関だけで、外からは自由に入れる。中からはスタッフの鍵がなければ出られない。外出希望があるときは安全に配慮しながら対応している。家族、地域の方には説明をし、理解してもらっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	共用空間では常にスタッフが1人以上で見守りをしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の状態に応じた対応ができています。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ひやりはつとや事故報告書を記入し、原因、問題、改善についてその都度話し合いをし、記録に残している。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	緊急時、事故発生時、火災時の対応はスタッフルームに掲示、他の対応はリビングに貼り、訓練は消防訓練の時に救命講習をしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時の対応、連絡網を作成しスタッフルームに掲示している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	状態変化によるリスク発生については、その都度連絡し、ひやりはつとが生じた時も家族に連絡、説明をし、利用者の暮らしを尊重しながら、家族と話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	本人に体調を伺う、毎日定期でバイタル測定、申し送りで注意点を話あう、記録簿に記入し対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬についての説明書を個人ファイルにおさめ、理解確認し、情報を共有している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	ケースごとに排便コントロールを行い、適切な下剤の選択、自然便を促すよう飲食物を提供している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケアを実施している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量を記録に残し、その時に応じた支援をおこなっている。昼、夕食は業者よりカロリー計算された福祉メニューを注文して、食事形態もその人にあったものを提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがい、消毒を徹底し、予防対応の取り決めがあり、それをリビング、廊下に貼っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食器、調理用具の消毒を決め毎日実施している。食材も新鮮な物を使用している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				

号 番	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ホームのまわりに田畑が多く、とりたてて意識せず、自然をそのまま受け入れている。玄関やリビングの窓から見える庭には、季節の花を植えている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	不快な音や光を出すことはない。室内の照明も時間、天候で配慮し、日差しはカーテンで調整している。家具、備品は最小限に抑え、トイレには花飾り、玄関、廊下、リビングには絵を飾り、好みの音楽、テレビをかけたり、毎月にちなんだ壁画を作り、季節感、達成感を味わえるように取り組んでいる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ベンチやソファー、畳の空間をもうけ、プライバシーに配慮しながら、気のあった入居者同士の交流がスムーズにいくよう工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には備え付けの家具はない、今まで本人さんが使用していた、馴染みの物、家具を持ってきて頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空調設備は整っている、こまめに温度管理をし、換気も午前午後行っている。居室は入居者と話を調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	全棟バリアフリーで必要に応じ、廊下、トイレ、浴槽に手すりを設置している。		

号 番	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室やトイレには名前を書いて知らせ、必要に応じて個々に説明をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	徐々にではあるが施設の周りに花を植え、プランターをおき、利用者さんと花のお世話をしている。		

V サービスの成果に関する項目 B ユニット

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ② 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> ③ たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input checked="" type="radio"/> ① 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ② 少しずつ増えている <input type="radio"/> ③ あまり増えていない <input type="radio"/> ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> ② 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ② 家族等の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 家族等の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目